

令和4年度 第2回さいたま市健康づくり・食育推進協議会 議事概要

◎ 日時

令和5年1月19日（木）午後3時30分～5時05分

◎ 場所

さいたま市役所 議会棟2階 第6委員会室

◎ 出席者

《委員》桃木委員（会長）、角田委員（会長職務代理）、荒木委員、大塚委員、小野崎委員、加藤委員、小林委員（Zoom参加）、近藤委員、佐藤委員、菅野委員（Zoom参加）、並木委員、服部委員、松本委員、湊委員
《関係課》北区保健センター：黒須所長、西区保健センター：武田主幹、桜区保健センター：大井係長（Zoom参加）、保健所 地域保健支援課：秋本主査、農業政策課：深谷主任、健康教育課：高橋主席指導主事兼課長補佐
《事務局》保健福祉局 保健部：杉本部長、今野副理事
健康増進課：浅野課長、永井課長補佐、伴田主査、中山栄養士、山口主事
《傍聴人》なし

◎ 欠席者

《委員》秋山委員、松村委員

◎ 会議資料

《事前配布》

- ・次第
- ・さいたま市健康づくり・食育推進協議会委員名簿
- ・資料1 さいたま市ヘルスプラン21（第2次）に関する事業の取組事例（食育の取組合む）
- ・資料2 さいたま市次期健康増進計画の位置づけ
- ・資料3-1 さいたま市ヘルスプラン21（第2次）影響評価票
- ・資料3-2 第3次さいたま市食育推進計画影響評価票
- ・資料4 （仮称）さいたま市次期健康増進計画 骨子案概要
- ・参考資料1 健康日本21（第二次）最終評価結果報告 概要
- ・参考資料2 第47回 厚生科学審議会 地域保健健康増進栄養部会
- ・参考資料3 さいたま市次期健康増進計画 策定スケジュール
- ・さいたま市健康づくり・食育推進協議会設置要綱
- ・さいたま市健康づくり・食育推進協議会運営要領

《当日配布》

- ・さいたま市健康づくり・食育推進協議会委員名簿（1枚）
- ・さいたま市健康づくり・食育推進協議会関係課職員名簿（1枚）
- ・座席表（1枚）
- ・さいたま市ヘルスプラン21（第2次） 概要版
- ・令和4年度さいたま市がん対策推進講演会チラシ

1 開会

議事録は、会長に一括で承認いただき、市ホームページ上で議事概要を公開することによってほしいか。

委員：異議なし

2 議事

（1）さいたま市ヘルスプラン21（第2次）及び第3次さいたま市食育推進計画の進行管理について

事務局より資料に基づき説明。

《資料》

- ・資料1 さいたま市ヘルスプラン21（第2次）に関する事業の取組事例（食育の取組含む）

【各委員から】

大塚委員：コロナ禍でZoomでの研修が続いていたが、対面とZoom併用のハイブリッド研修を始めた。改めて対面の研修の意義を感じるとともに、業務の合間に受講できるZoom研修のメリットも再確認した。食物アレルギーの研修は毎年更新される部分があるため、それを周知するために、毎年開催することが必要だと考えている。今月、調理講習会を3年ぶりに開催する予定である。

小野崎委員：区内のスポーツ団体、地域包括支援センター、理学療法士会が属するNPO団体、ボランティア団体と共に2017年から「みんなのスポーツ・健康フェア」を1~2回/年のペースで開催している。大人になると測定する機会が減る握力を測定したり、健康相談をしている。先週に開催した同フェアには約300人が参加した。開始当初はシニア層の参加を想定していたが、コロナ禍の影響もあるのか最近1、2年は子連れの若い世代の参加が目立って増えている。参加者からは子どもと一緒に体を動かす機会がもっと欲しいという声が寄せられている。浦和スポーツクラブの活動を掲載した情報紙を地域に配布したり、シニア層

向けの学びの場を提供しており、こちらも参加者が増えている。市民が集える身近な場所を増やすため、今年度は試験的に管内の中学校の武道場及びテニスコートの開放をしており、利用者から好評である。

加藤委員：「市民健康栄養講座」は毎月平日に開催しているため、参加者は高齢者が多くサロンの役割も果たしている。「さいたま市健口教室」は10区で開催し、健康と食事についての意識が高まったとの声が聞かれている。

小林委員：減塩及び適塩の取組を市民にPRするため、商工会議所と人間総合科学大学で共同開発した商品を3月5日に「さいたま市にぎわい交流館いわつき」で販売するイベントを予定している。また、中小企業の活力アップを目的に医療系学部と製品開発支援を行っている。メンタルヘルス・マネジメント検定試験の申込者は昨年度より増えており、事業を対面で開催することができている。

近藤委員：睡眠障害をテーマにした市民公開講座を開催した。申込みが多く、すぐに定員に達した。非常に好評だった。毎年実施している政令指定都市薬剤師会全国統一薬物乱用防止キャンペーンでは、密を避けながら、啓発チラシ等を配布。浦和駅東口の市民広場で実施した薬物乱用防止キャンペーンでは新型コロナウイルスに感染した場合の連絡先等を啓発するスタンプラリーを実施した。区民まつりでは、接触機会を減らしながらも多くの人に啓発する方法を考えることに苦労した。

佐藤委員：令和3年度から開始した、健診を受けた当日の受診勧奨「0次勧奨」、一次勧奨（受検から半年後）、二次勧奨（受検から一次勧奨から3か月以内に医療機関を受診した者の割合は低迷しており、今後は0次勧奨の成果を検証していきたい。

並木委員：愛育会の会員の高齢化に伴い、事業は縮小してきている。会員の資質向上のために、実技講習会を実施した。リモートで子育て教室を開催している地区もある。社会福祉協議会や公民館等と協働して、高齢者や独居の方に声掛けや、介護予防体操等に取り組んでいる。また、健（検）診の受診を進める声掛けもしている。区民まつりでは子どもの参加が多い手型取りのブースを出展したが、今年は高齢者の参加が多かった。地域との連携を図りながら愛育会として関わりができればと考えている。

湊委員：学童から高齢者までを対象に健全な食生活を広めるために活動している。公民館の委託事業等では人数や時間制限や黙食等の条件のもと、講義と調理実習を実施した。事業に参加した高齢者からはコロナ禍で在宅時間が長かったので、外出するのにいい機会だったという声が聞かれた。

角田委員：さいたま市歯科医師会では、前期及び後期高齢者に対して対面でオー

ラルフレイル予防の事業を行った。口の機能に興味を持ってもらい、口の周りの筋肉を使う体操を行うことで口の周りの筋力アップを図り、摂食嚥下の機能の維持や向上を目的としている。例年行っていた教室参加者が医師等を囲んで行うグループワークは、コロナ禍で中止した。対面式の事業は参加者が減少しているので、原因を分析していきたい。「認知症と口腔との関係」をテーマにした市民公開講座はアクセス数が多く好評だった。

桃 木 会 長：各種がん検診や特定健診を通して、疾病の早期発見と治療開始に努めている。市民のがん検診の受診率は2～3割と低いため、更に市民に検診の受診を勧める必要がある。また大宮医師会の主催でハイブリッド形式の心不全をテーマにした市民公開講座を開催し、約400名の参加があった。患者さんの減塩やフレイル予防、運動の取組を支えるために、医師に限らず看護師等の多職種が連携する仕組みを始めようという段階である。少子高齢化に伴い、心不全パンデミックが起こる可能性があり、心不全を早期に発見することが必要となる。

松 本 委 員：家庭婦人バレーボールの大会を開催した。参加者には健康づくりのためには運動が必要という意識がある。今年の区民まつりには多くの参加者があり、市民の期待の大きさを感じた。高齢者にお弁当を作って持ち帰ってもらう事業や、健康体操に参加した参加者からは、楽しかったという声が聞かれた。

【意見、質疑・応答】

近 藤 委 員：がん発見者数の元になっている精密健康診査受診者数はどれくらいか。

桃 木 会 長：この用紙はがん発見者の人数で記載しているため、この場では回答できない。

(事務局回答)：要精密検査人数(R2)

肺がん検診	5,218人
大腸がん検診	7,460人
胃がん検診	3,934人
乳がん検診	1,724人
子宮がん検診	318人

小 野 崎 委 員：松本委員からの発言を受けて、伝えたいことがある。自治会の方から健康づくり等のイベントを自治会で開催したいが人手がない、開催する場所が取れない等の相談を受けた。イベントを開催する際には、自治会と施設を管理する自治体の指定管理者が連携を取ることが有効だと思うが、近年はそのような関係が希薄化してきていると感じている。市から公共施設に対し、地域と連携することを推奨することが必要だと思う。

(2) 次期健康増進計画の骨子(案)について

事務局より資料に基づき説明。

《資料》

- ・資料2 さいたま市次期健康増進計画の位置づけ
- ・参考資料1 健康日本21(第二次) 最終評価結果報告 概要
- ・参考資料2 第47回 厚生科学審議会 地域保健健康増進栄養部会
- ・資料3-1 さいたま市ヘルスプラン21(第2次) 影響評価票
- ・資料3-2 第3次さいたま市食育推進計画影響評価票
- ・資料4 (仮称)さいたま市次期健康増進計画 骨子案概要
- ・参考資料3 さいたま市次期健康増進計画 策定スケジュール

【意見・質疑・応答】

計画の期間、基本理念、重点目標及び分野別目標について委員からの意見、質疑なし。

桃木会長：受動喫煙防止について、取組を更に進めてほしい。禁煙外来では禁煙治療薬がコロナ禍の影響もあり非常に不足しており、処方できないため禁煙につなげられない実情がある。今後、この治療薬の生産がどこまで増えるのか見通せないため、市民に受動喫煙防止の意識を浸透させるために、各委員の協力をお願いしたい。

最近、自殺者が増えており、コロナ禍の影響も否定できないと考えられる。人とのコミュニケーションが取りにくくなっているため、悩みごとが相談できる環境の整備が非常に大切なので、ここにも重点を置いてほしい。

小野崎委員：具体的な施策は来年検討していくのか。

事務局：お見込みのとおりである。

小野崎委員：分野別目標に目が行きがちだが、基本理念にある「社会とつながって」や、重点目標「地域と共につくる」の部分については、施策に隠れがちになるため、コミュニティ分野の課やスポーツ分野の課にも働きかけて施策を出すようにしてほしい。

桃木会長：地域コミュニティは非常に大切なので、意見を集め、自治体が支援してほしい。

松本委員：自治会の加入者や民生委員のなり手が減っている。地域コミュニティは災害時に大変重要になってくるので、市は自治会の皆加入を条件に大規模マンションの建設許可を出す等してほしい。

3 その他

(1) 令和4年度さいたま市がん対策推進講演会について

事務局より資料に基づき説明。

《資料》

・令和4年度さいたま市がん対策推進講演会チラシ

【意見、質疑・応答】

特になし。

(2) 次期自殺対策推進計画の骨子(案)の概要について

ヘルスプラン21(第2次)と指標を共有している本市の自殺対策推進計画も来年度、次期計画を策定する予定である。今後、委員宛に骨子案の概要を郵送する予定である。御意見があれば返信をお願いしたい。

《資料》

・なし

【意見、質疑・応答】

特になし。

桃 木 議 長:自殺対策の一環として、JR等と協力して気になる様子の人に声掛けができる仕組みが作れるといい。

4 保健部長挨拶

5 閉会